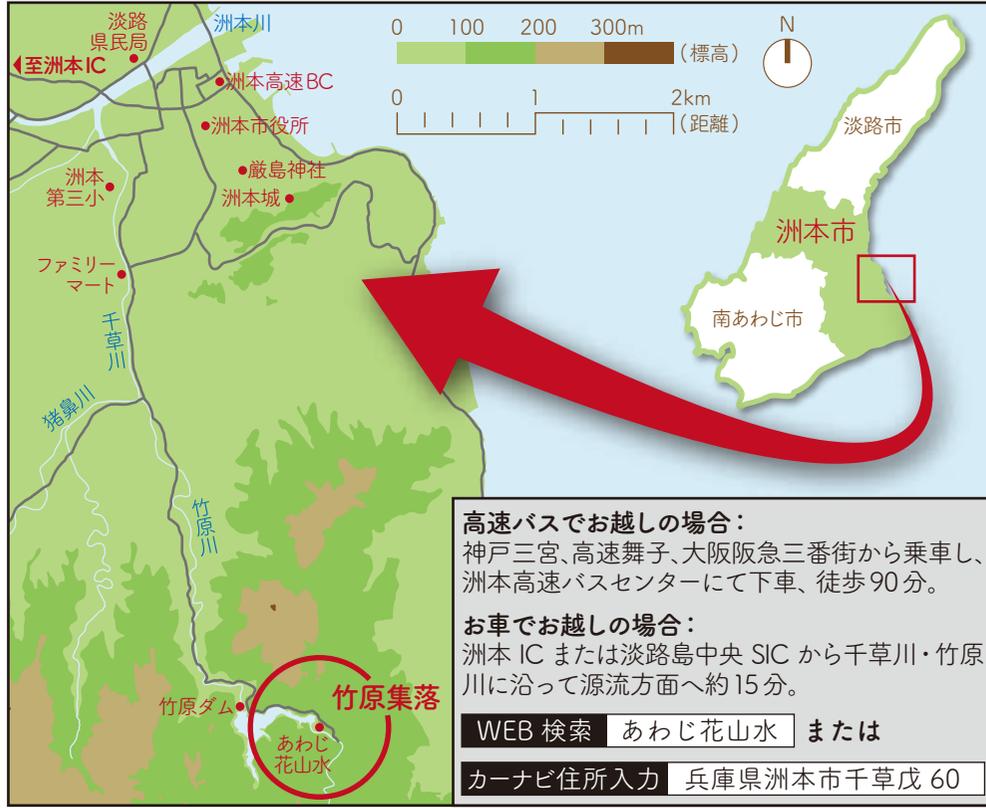


竹原集落へのアクセス



お問い合わせ先

淡路島ロングトレイル構想に関するご意見やご相談、イベント申し込み等のお問い合わせは、以下のメールにてお受けいたします。

awaji.longtrail.hq@gmail.com

(淡路島ロングトレイル協会設立推進委員会 事務局)

[※] 本誌 P27 掲載のホームページ・Facebook ページからのお問い合わせも可能です。
[※] お問い合わせ内容によっては、回答にお時間をいただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

淡路島ロングトレイル構想 Awaji Long Trail project



時速 4km で、あわじをめぐる。



はじめに

淡路島ロングトレイル構想

淡路島は、豊富な自然と多様な文化、更にそれらの積み重なりによる悠久の歴史を有する豊かな島です。

淡路島ロングトレイル構想は、こうした有形無形の資源を活かすことを前提に、中心市街地や商店街だけではなく、農村や森林を含めて淡路島全体をひとつなぎにする「しまあるき」コースの計画です。

性別や年齢を問わず楽しめるコンテンツの構築、インバウンド（外国人観光者）の獲得と地域ビジネスの創出、環境にも健康にも良い「健やかな観光」の確立、里山や集落環境の保全を目指します。

ロングトレイルとは？

ロングトレイル (Long Trail) とは、自然道を主とした道路を長時間・長距離歩くアウトドアの形態、及びその為の道路空間を指します。

険しい山の頂上を目指す登山と異なり「歩く」ことに主眼が置かれている為、コースは山岳地に限らず、田畑や牧場といった農地や、家屋が立ち並んだ市街地等も含まれます。その為、維持管理に係る財的・人的な負担を抑えられるようなコースの設定も可能である点が特徴です。

アウトドア先進国では古くから多様なトレイルが存在し、多くの人々が訪れてきました。日本では2004年に「信越トレイル」が日本流トレイル第一号として登場して以降、各地でロングトレイルの計画が活発化しており、現在17のトレイル（日本ロングトレイル協会加盟トレイル：2019年6月現在）が開通されるに至っています。



様々なロングトレイルの形態



【引用】日本ロングトレイル協会 HP <http://longtrail.jp>

淡路島ロングトレイル構想の理念

地域の資産としてのロングトレイル

淡路島ロングトレイル構想は、島内の豊かな暮らしを育んできた山林や田畑、小屋や地形といった無名の地域の資産を観光資源として見直すことを出発点にしています。本構想は、トレイルツアーの実施やコースの維持管理、情報発信を通して、淡路島の人文・自然環境の現代的価値を見出しながら、地域の資産としてのロングトレイルを目指します。

歴史・文化の象徴としてのロングトレイル

淡路島には様々な歴史や文化があります。こうした魅力は、限られた場所の「まちあるき」だけでなく、「やまあるき」や「はまあるき」によっても発見され、共有されるものであると考えています。

本構想は、淡路島の在りし日の姿を思い起こし、次世代へ引き継ぐ為の縁（よすが）となる、歴史・文化の象徴としてのロングトレイルを目指します。

自然豊かな学びの場としてのロングトレイル

淡路島には豊かな植生や、風光明媚な四季折々の風景を有しています。また島内は標高も低く勾配も緩やかであり、クマも生息していません。観光スポットとしても、また教育環境としても最適な場所であるといえます。

本構想は、地元の原風景を感じながら青少年が健やかに育つ環境を下支えする、自然豊かな学びの場としてのロングトレイルを目指します。

地域の資産としてのロングトレイル



自然豊かな学びの場としての
ロングトレイル

歴史・文化の象徴としての
ロングトレイル

淡路島ロングトレイルの3つの理念



むかし炭窯、いま休憩所

これまでの活動 (1)

大学生による集落調査と「ロングトレイル」の提案 (2014-2015)

淡路島ロングトレイル構想は、洲本市千草竹原集落の取り組みに端を発しています。

竹原集落は淡路島の南東部、洲本市の市街地から離れた山間部の袋小路に位置する集落で、炭焼産業が活発な地域でした。幾つもの炭窯跡や、網の目のように張り巡らされた山林道が、在りし日の隆盛を物語っています。

2014年9月、洲本市の域学連携事業で早稲田大学の学生有志が竹原集落を訪れます。以降彼らは、集落での生活やこれまでの歴史について話を聞いたり、自然豊かな集落と一緒に歩いたりしながら、住民や役場、地域おこし協力隊の方々と検討を重ね、集落の将来について考えてきました。

翌年3月、彼らは一連の活動の報告を兼ねて、この集落が目指すべき方向は、地域を大きく作り変えるのではなく、かつての集落の姿を見失わないかたちで、無理なく継続できる取り組みを少しずつ進めていくべきとし、かつての産業インフラであり、集落の財産である山林道をトレイルとして活用し、交流人口の拡大とリピーターの獲得を図るプロジェクト「千草竹原花山水トレイル計画」を提案します。

「トレイルをつくる」「トレイルをつかう」「トレイルと生きる」の3段階のフェーズに基づくこの計画が、現在の淡路島ロングトレイル構想のベースになっています。



竹原集落におけるロングトレイルの提案

【引用】洲本市域学連携事業成果報告会 (2016.03.26) 早稲田大学発表資料

ロングトレイル計画の体制づくりと情報発信 (2015-2016)

2015年度は、トレイル計画を実際に進めていくための体制づくりが始まります。

具体的には、集落周辺のトレイルコースの眺望景観や安全性を再確認すると共に、参加者を募ってコースの良さや課題を評価してもらおうイベント（モニターツアー）の準備を進めてきました。またこうした取り組みと併せて、トレイルの管理運営の体制を固めるべく、島内外の有識者や関係者との関係を築いていきました。

2015年11月、わが国のロングトレイルの権威である日本ロングトレイル協会の後援の下、「淡路島ロングトレイル協会設立推進委員会」設立イベントを行いました。集落の住民や役場職員、NPO や観光協会等の島内組織、大学関係者といった多様なメンバーで発足したこの委員会は、その名の通り淡路島全域をひとつなぎにするトレイル計画の実行主体であると同時に、その発祥の地である竹原集落の将来を共に考える、むらづくり組織としての役割も担うこととしています。

委員会設立イベントやモニターツアーは、地元メディアにも取り上げて頂きました。また研究分野においても、集落環境を「使いながら保全する」試みとして、委員会の取り組みは高い評価を受けています。



コースの眺望景観と安全性の精査



委員会設立イベント：日本LT協会代表中村氏を迎えて



研究分野における評価

【引用】過疎集落における産業遺構の動態保存を通じた地域づくり：日本建築学会関東支部研究報告集 (2016.03)

淡路ビーフも、たまねぎも、
歩いたあとが一番おいしい。



これまでの活動（2）

モニターツアーの積み重ねとリピーターの獲得（2016-2017）

委員会が発足した翌年からは、域学連携 OB の後方支援も受けつつ、いよいよ本格的な取り組みに移ります。

2016年11月には、コースをより分かりやすくするための看板を製作し、それを参加者と一緒に設置するツアーを実施しました。

「ゲスト⇄ホスト」の関係を越えて、参加者と一体となった取り組みは、円滑・迅速なコース管理に繋がるだけでなく、コースの魅力や安全性について、親身な意見を頂くことができました。

2017年3月には、1泊2日の宿泊付ツアーを実施しました。地元漁師や店舗の協力によって昼食は「山の幸」を、夕食は「海の幸」を味わってもらい、トレイルに加えて淡路島の「御食国（みけつくに）」としての魅力も堪能できるツアーです。このようなトレイル以外のコンテンツとの連携は、今後も積極的に行いたいと考えています。



コース看板設置イベント



委員会でデザインしたコース看板とグッズ



委員会事務局長のインタビュー記事

【引用】朝日新聞「フロントライン この人に聞く」（2016.11.23）

サポーターとの協働によるコースの魅力づくり（2017-18）

2017年度は、委員会だけではなく、集落のファンやトレイル愛好家の方々と共に新たな活動を進めていくことを目標に、取り組みが進められました。

2017年11月に実施された「歩く！直す！竹原 DIY トレイル」は、トレイルを楽しんでもらいながらも、文字通り DIY によってコースの補修も共同で行う試みです。既製品をなるべく使わず、その場で間伐した木を活用し、手作りで階段や足場を作ったことで、参加者の思いのこもった、より魅力あるコースに生まれ変わりました。

この企画は翌年3月にも行われ、前回の DIY 箇所を辿りながら、更なる箇所にメンテナンスを施すという、サポーターの協力による好循環が生まれています。

またこの年から首都大学東京観光科学科とのコラボレーションも始まり、新たな域学連携による取り組みも少しずつ進んでいきます。



歩く！直す！竹原 DIY トレイル



手作りの旅路。



これまでの活動 (3)

トレイルの多目的活用と更なる魅力発信 (2018-19)

昨年度に引き続き、竹原集落の魅力発信と新たなサポーターの獲得に向けた取り組みが広がられています。

2018年11月には3回目の「歩く！直す！竹原 DIY トレイル」が実施され、これまでと同様、色々な方の手が少しずつ入ったハンドメイドのコース作りが進められました。翌年3月には里山の自然を活かした新たなアクティビティとして、絶景の高台でヨガレッスンを行う「春の竹原ヨガ × トレイル」を開催しました。

また2018年5月の淡路島短編映画祭への出展をきっかけに、首都大学東京の学生チームによるプロモーションビデオ制作が行われました。4ヶ月の制作期間中、過去のイベント参加者の協力もあり、素敵な映像作品を作ることができました (▶P27)。

またトレイルを含めたこれまでの取り組みが認められ、2018年10月には竹原集落が 井植文化賞 (地域活動部門) を受賞することとなりました。



プロモーションビデオ制作風景



春の竹原ヨガ × トレイル

今後の目標

新たな仲間との協働によるコース拡張とトレイル活用の推進 (2019-)

地道な活動を少しずつ続けてきた「淡路島ロングトレイル構想」ですが、これからはパートナーを募りながら、皆様と共にプロジェクトを進めていきたいと考えています。

今後も「ヨガ × トレイル」のように、世代を越えて楽しめる「○○○× トレイル」のイベント企画や、新たなコースの発掘・整備等、多様な活動を進めていく予定です。こうした取り組みに関心のある人や、アウトドアや自然が好きな人に、ぜひご協力頂きたいと思えます。興味のある方は気軽にお問い合わせ下さい (巻末参照)。

これからも地域にある魅力を再発見しながら、文字通り歩くスピードで少しずつ着実に「淡路島ロングトレイル構想」を進めていきたいと思えます。

6. 合わせ技 (分野横断) を使いこなそう



既存の体制や取り組みを、色々な目的を同時多発的に果たせるようにカスタマイズしてみよう。



宿泊ツアー告知ポスターと「あわじ島トレイル弁当」

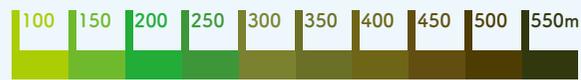
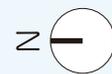
環境まちづくり講座の参考事例として紹介

【引用】福井県鯖江市環境リーダー養成講座「まちづくりから〇〇へ 4 世帯の限界集落の現場から」(2017.03)

立ち止まらないと見えないものが、
このしまにはたくさんあります。



トレイルマップ：竹原コース



※国土地理院の電子地形図（タイル）への追記により作成



1 あわじ花山水
アジサイ園（概ね 6 月～7 月）ほか四季折々の風景が楽しめる庭園。



2 コース入口
竹原コースの入口。シキミ畑を抜けたら、いよいよトレイルが始まります。



3 竹原ダム
もうひとつのスタート地点。こちらは沢沿いを歩くルートになります。



4 沢の小さな橋
清流に掛かる小さな橋の跡。先人の歩みを感じながら渡りましょう。



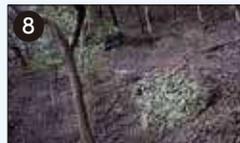
5 沢の木漏れ日
条件が良い時は、木漏れ日の広がる神秘的な風景を味わえます。



6 炭窯跡
コースに点在する石積みの炭焼窯。あなたはいつ見つけられるでしょうか？



7 木の根の階段
自然にかたち作られた階段も、山が生んだ恵みのひとつかもしれません。



8 石積みの谷
昔は交通路だったことを物語る遺産。炭窯と同様、コース内に幾つもあります。



9 DIY 補修箇所
過去に参加者の皆様と補修した場所です。これからも増えていくかも。



10 炭窯跡/苔の丘
炭窯跡の正面。炭の破片が積もる小さな丘に緑の絨毯が広がっています。



11 植生の境目
植生のボーダーラインがはっきりと見てとれる珍しいポイント。



12 苔の谷
多種多様な苔の群生する谷。自然の息吹が感じられる癒しスポットです。



13 山の神様の祠
大杉の根元に座する神様の住処。旅の無事を祈りましょう。



14 森の隙間
山林に空いた隙間から南側の風景が見えたら、ゴールはもうすぐ。



15 高台の絶景
開けた高台から、淡路島の輪廓を感じられる雄大な景色が臨めます。



16 迦葉山灌水寺
淡路西国三十三ヶ所霊場のひとつ（無住のため納経等はふもとの満泉寺にて）。

自然にも健康にも、
たぶん財布にも優しい観光。



はじめに

淡路島は瀬戸内海国立公園の東部に位置し、島の北部は幅約 4km の明石海峡を隔てて岩屋から西南端の灘まで約 60km ある。東は紀淡海峡から西は鳴門海峡にかけて東西約 25km、総面積 595 km²にわたって横たわり、佐渡ヶ島に次ぐ日本第二、瀬戸内海最大の島であり、周囲 155km、琵琶湖よりわずかに狭い。

この淡路島は新生代第三紀以降（約 533 万年前）、西南日本内帯山地が陥没して紀伊水道や鳴門海峡が誕生した際、本州と連絡が絶たれ地塁島および属島の沼島が残存して生じた島である。島の南部をほぼ東西に流れている洲本川、三原川を結ぶ構造谷を境に南北に大きく区別され構造的にも大きな違いを示している。

淡路島の北部と阪神間を結ぶ明石海峡大橋を渡れば、31 の文化財が日本遺産となった島の玄関口であり、国生み神話の時代を想像させる遺跡群に出会う。明石海峡・紀淡海峡・鳴門海峡の三大海峡が生む豊かな海の幸、里山・里地から生まれた島の豊かな食文化・伝統食、そして人情にあつい人々との出会いが待っている。ここから網の目の様に東西南北に残された古道を探索すると、「歴史を味わう、歴史を学ぶ、歴史を体験する」淡路島ロングトレイル体験が始まる。

淡路の歴史

「古事記の冒頭」を飾る国生み神話の島、淡路島は、2016 年淡路島の古代国家を支えた海人（あま）の営みが代表的な 31 の文化財とともに文化庁から「日本遺産」に認定された。これは従来の国宝やユネスコの世界遺産とは全く異なり、歴史的な魅力やユニークな特色を一つの「ストーリー」と共に伝えていくところにある。

近畿地方を扇に例えると、淡路島はその要（かなめ）に位置する。淡路島を訪れる人々は各地で「おのころ島」伝承を聴くことができる。日本書紀によれば、「イザナギ・イザナミ男女二柱の神が天の浮橋に立って鉾で海の水をかき回し、その鉾先から滴り落ちる潮が凝り固まって「おのころ島」となった。そこに下って結婚した二柱の神は最初に淡路島を、続いて次々と大八州（おおやしま）を生んだ。すべての神業をすませたイザナギの大神は、幽宮（かくりみや）を造り永遠に隠れてしまわれた。」それが伊弉諾神宮（イザナギジングウ）の起源という。

海人族をルーツにもつ淡路人

数千年ほど前、巧みな航海術で大陸から最新の技術やニュースを持ち込むだけでなく、淡路島で作られた食材や鉄器などを島外に運んでいた「海人族」（あまぞく）という民がいた。明石海峡方面に活躍する海人族は「野島の海人」と呼ばれ、鳴門海峡方面に活躍する海人族は「御原（みはら）の海人」と呼んだ。彼らは宮廷に海の幸のみならず穴（しし）という鹿・猪の肉など、島の山の幸を貢進した。

淡路島は当時、朝廷からも、海外からも大切な場所として一目を置かれる存在で、「御食国（みけつくに）」と呼ばれた。

なぜ淡路島でロングトレイルプロジェクトを推進するのか？

淡路島は島の南部に位置する諭鶴羽山（標高 608m）および柏原山（標高 587m）の山系と、南北に縦断し六甲山系に連なる津名丘陵（400～500m）からなるが、淡路島全域に分布する花崗岩層からの湧水が 20 か所以上存在する。

2015 年、淡路島の風土資産を掘り起し体験できるものとして、本格的なロングトレイルプロジェクトの開発が洲本市千草竹原集落から大学・地域・自治体の参画と協働のもと始まった。柏原山のふもとの小さな村、竹原集落は山間の棚田で飯米用の稲作、黒毛和牛（淡路ビーフ）の繁殖、原木椎茸の栽培、休耕田を活用したアジサイ観光園やシキミ栽培などを生業としている。

淡路島の中央部に位置する洲本市の中心市街地から車で約 15 分走ると、四季を通じ多種多様な緑の木々や花々、多くの野鳥の鳴き声が聞こえる源流の郷（さと）竹原集落にアクセスできる。ここでは、古くは里山の手入れから得た淡路島の優占種樹木であるウバメガシを原料とする木炭を、燃料として生産していた。竹原コース（▶P19-20）を歩けば、当時の生業を思い起こすことができる多くの炭焼き窯跡に出会えるだろう。

里地の小さな竹原集落は、水神祠、庚申塔（こうしんとう）、持国天、猿丸太夫祠、阿弥陀如来堂、東谷の山の神、諏訪明神社、西の谷の山の神の 8 つの祠が囲むように鎮座している。ふるさとの人々は神々とともに暮らしていた往時をしのぶことができる。

島に賦存する生物多様性に富んだ豊かな自然のみならず、鱒（サワラ）、鱧（はも）、鯛、玉筋魚（イカナゴ）、チリメン雑魚、蛸等様々な美味しい食べ物を味わうことができる食文化、そしてさまざまな神話に出会うなど、「淡路島まるごと体験」を可能にするのが「淡路島ロングトレイル（ALT）」の理念でありプロジェクトの目標でもある。

限界集落と呼ばれるような地域が日本列島各地に急増している中で、淡路島も例外ではない。淡路島から始まる里山・里地・里海のトレイル体験は、住民や自治体、更には地域外の多主体による参画と協働のもと、地域資源の多様性に触れ、その保全を通じた「持続可能な自治体の運営」への挑戦でもある。

参考文献：

- 文1) 兵庫のふるさと散歩編集委員会：兵庫ふるさと散歩 淡路編、21世紀ひょうご創造協会、1978.03
- 文2) 司馬遼太郎：葉の花の沖、文芸春秋、2000.09
- 文3) 淡路島日本遺産委員会：日本遺産 淡路島、2017.03
- 文4) 独立行政法人環境再生保全機構：地球環境基金便り、No.44、2018.03

次に歩く誰かのために。



関連ホームページ

淡路島ロングトレイル構想の中心であり出発点である、洲本市千草竹原集落関連のホームページです。イベントの申し込みやお問い合わせ、淡路島各所の情報収集等、お気軽にアクセスください。

淡路島洲本市千草竹原集落 公式ホームページ



集落の魅力や、様々な取り組みをご覧いただけます。

<http://www.tikusatakehara.com/>



淡路島洲本市千草竹原集落 公式 Facebook ページ



集落の日々の暮らしやイベント情報を逐次発信しています。あなたの「いいね!」をお待ちしております!

<https://www.facebook.com/tikusatakehara/>

あわじ花山水 ホームページ



豊かな自然の風景があなたを待っています。竹原集落の魅力味わうなら、まずはここへ。

<http://www.awajihanasansui.com>

淡路島ロングトレイル構想 PV

首都大学東京の学生チームによる、淡路島ロングトレイル構想のプロモーションビデオを YouTube にて公開しています。



<https://youtu.be/3LgbUmnOVvQ>



淡路島ロングトレイル協会設立推進委員会

The Committee for the Promotion of Awaji long trail Association (CPAA)

設 立 2015年11月14日

事業内容 淡路島ロングトレイル協会の設立に関する事業
淡路島内におけるロングトレイルコースの開発に関する事業
淡路島内におけるロングトレイルの普及啓発に関する事業
ロングトレイルを通じた淡路島の活性化に関する事業
その他、委員会の目的を達成するために必要な事業

委員長	岡田 清隆	(環境省環境カウンセラー)
副委員長	水田 進	(竹原町内会、あわじ花山水 代表)
事務局長	太田 明広	(竹原町内会)
委 員	高木 愛季	(洲本市地域おこし協力隊 OB)
(五十音順)	高橋 吉	(洲本市企画課)
	谷口 史朗	(洲本市地域おこし協力隊)
	野田 満	(首都大学東京 観光科学科 助教)
	福浦 泰穂	(一般社団法人淡路島観光協会 事務局長)
	三崎 雄太	(洲本市地域おこし協力隊)
	やまぐち くにこ	(NPO法人淡路島アートセンター 事務局長)

淡路島ロングトレイル構想のロゴマーク



淡路島ロングトレイル構想の生誕の地である、竹原集落を通る大きな循環の輪は、淡路島をひとつなぎにしていく理念を表しています。

探検って、実は身近なものです。

